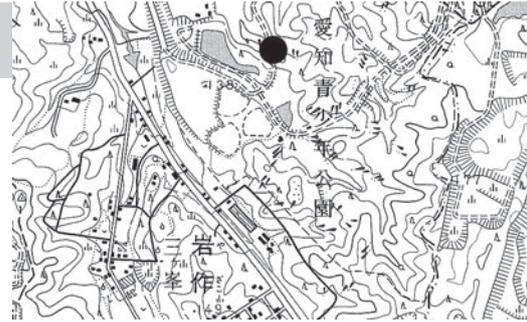


I-G-2号窯跡

所在地 愛知県長久手町岩作地内
 調査理由 公園緑地整備事業
 調査期間 平成15年4月～7月
 調査面積 350㎡
 担当者 藤岡幹根・酒井俊彦・鵜飼雅弘



調査地点 (1/2.5万「平針」)

調査の経過 調査は公園緑地整備事業に伴う事前調査として、愛知県建設部公園緑地課より委託を受けて、平成15年4月から7月にかけて実施した。調査面積は350㎡である。

遺跡の立地 I-G-2号窯跡は日進市・豊田市と境を接する、愛知県長久手町岩作に所在する、愛知県青少年公園の敷地内にある。周辺にはI-G-6号窯をはじめとする三ヶ峯古窯跡、神明社古墳群などがある。窯跡は香流川右岸、北西に向けて延びる丘陵の北斜面に立地し、標高約139mを測る。なお調査地点には調査直前まで、園路に伴う休憩施設があった。

調査の概要 今回の調査では、分焰柱を有する窖窯を3基確認することができた。窯体はいずれも焼成室より上部で削平を受けており、焚口から焼成室の一部までの調査となった。

SY01は残存長約5m、分焰柱付近の幅は約2.6mを測る。焼成室の平均斜度は約19°分焰柱から焚口にかけての平均斜度は約1である。分焰柱は約33cmの高さまで残り、地山をくりぬいて構築されている。焼成室の床面は1回の補修を確認することができる。

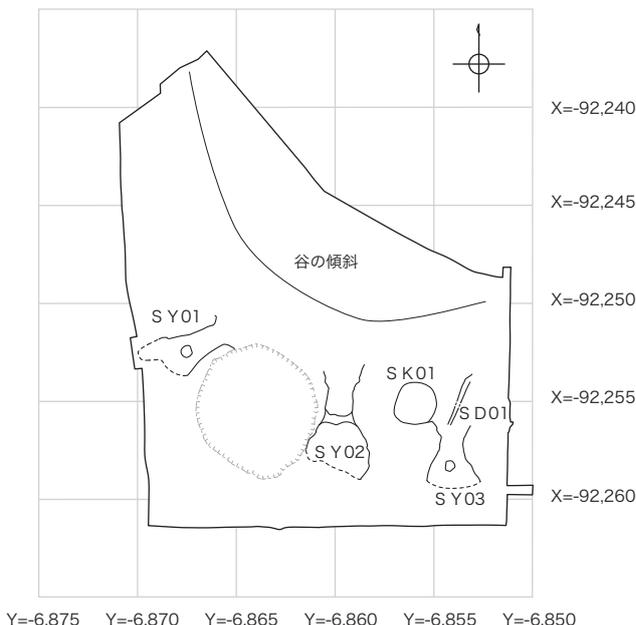
SY02は残存長約6.7m、最大幅は約3.5mを測る。焼成室の平均斜度は約23°床面の補修が少なくとも1回行われている。馬爪型焼台が一部焼成時の現位置をとどめていた。分焰柱は天井部までを残し、分焰孔も良好な状態で観察できた。

SY03は残存長約4.1m、分焰柱付近で約2.9mを測る。焼成室の平均斜度は約15°あり、焚口までほぼ同じ傾斜を保つ。床面に補修の跡が見られ、分焰柱及び焚口を山茶碗が軸着した塊を埋め込んで補強している。また焚口西側に作業場と考えられるSK01がある。

出土遺物は13世紀半ば頃の山茶碗及び山皿が中心であるが、SY01付近では土師質の鍋が

出土している。なお調査後、窯体構築時に排出した土砂を用いて前庭部を構築したことが確認され、SY01・02とSY03との間に操業時期の差があったことが確認できた。

(鵜飼雅弘)



I-G-2号窯跡主要遺構配置図 (1:800)



SY02完掘状況 (南から)